



鹿児島郷友会

先の大戦の敗戦から日本の再生を期すために (大東亜戦争メモランダム300話を俯瞰・総括し)

令和5年7月16日(日)

(公財)大東亜慰霊協
理事長 山下輝男

1



鹿児島郷友会

- 2025年 戦後80年
大東亜戦開戦から88年
(国力上無謀な戦いを挑んだ、軍が政治を壟断したと断じるだけで良いのか?)
- 戦後80年、日本は何を反省したのか
先の大戦の教訓は何か
日本人とは何だったのか
- 敗戦から学ぶもの多し



日本再生の処方箋・方向性

2



説明項目

鹿児島郷友会

- 1 大東亜戦争について
- 2 敗因に迫る14の視点

①持たざる国の国家戦略	②国防方針
③政軍関係	④同盟戦略
⑤国家情勢分析	⑥国民感情
⑦戦争指導計画	
⑧初期進攻後の戦争指導	
⑨戦争終結機会の捕捉	
⑩ドクトリン開発等柔軟性	
⑪日本の軍事組織の弱点	
⑫陸海軍の対立	⑬政略
⑭国家のリーダー	
- 3 日本の敗因等総括
- 4 日本再生の為に
- 5 大東亜慰霊協の紹介等

3



大東亜戦争について

鹿児島郷友会

- 1 先の大戦の呼称について(1話)
太平洋戦争、アジア太・平洋戦争、大東亜戦争、15年戦争
昭和戦争 等々
「大東亜戦争」との呼称決定(1946/12/12 閣議決定)
日本自らが主体的に考えて総括する意味においても適切
 - 2 支那事変を含め大東亜戦争と呼称
(1937/7/7 ~ 1945/8/15?) 終戦は何日?
 - 3 戦争目的(2話) 開戦の詔勅と政府声明(1941/12/8)
自存自衛とアジア開放
- * 現日本政府
「大東亜戦争」との語彙の使用を禁止していない。
統一されていず、文脈によるとしている。
政府としての定義なし

4

**大東亜戦争について(続)**

鹿児島郷友会

- 4 大東亜戦争間を契機に独立を果たした国(3話)
ビルマ、フィリピン、ベトナム、ラオス、インドネシア、
自由インド仮政府
- 5 大東亜戦争肯定論と否定論(197話)
- 6 大東亜戦争の世界史的意義(198話)
- 7 戦争責任(99話)
- 8 大西洋憲章(1941/8)と大東亜宣言(1943/11/6)
(221話)

5

**敗因に迫る14の視点**

鹿児島郷友会

2 敗因に迫る14の視点

- ①持たざる国の国家戦略
- ②国防方針
- ③政軍関係
- ④同盟戦略
- ⑤国家情勢分析
- ⑥国民感情
- ⑦戦争指導計画
- ⑧初期進攻後の戦争指導
- ⑨戦争終結機会の捕捉
- ⑩ドクトリン開発等柔軟性
- ⑪日本の軍事組織の弱点
- ⑫陸海軍の対立
- ⑬政略
- ⑭国家のリーダー

6

**視点1: 持たざる国の国家戦略**鹿児島郷友会
(257話)

明確な国家戦略が確立されていたか？

- 1 日本の地政学的与件と戦略方向
大陸辺縁弧状列島、資源小国、四面環海、大洋
朝鮮半島は日本の脇腹に突きつけられた短刀
大陸とは無縁では居られない宿命
戦略的方向性
①大陸に進出
②大洋に活路
- 2 『帝国日本の野望』論？
共同謀議: 支那侵略と世界征服
その根拠は「田中上奏文」(1927 田中義一首相が
天皇に奏聞)
明らかな偽書だが、根強く流布され信じられている！
- 3 国家戦略の存在・非存在

7

**視点2: 国防方針の妥当性等**鹿児島郷友会
(296話)

◎ 帝国国防方針はあったが、明確な国家戦略文書はあったのか？

(参考: 安保3文書(国家安全保障戦略、国家防衛戦略、防衛力整備計画)
R4年12月)

◎ 帝国国防方針 (M40、T7、T12、S11(1936)の計4回改訂)

1936(S11)改訂経緯
6/3 国防方針
6/30 国策大綱(国策の基準)
8/7 外交方針

1940/7/26 基本国策要綱(大東亜共栄圏建設を基本に)

◎ 陸海軍の戦力造成の根拠＝国防方針

以下独言

・陸軍の悲劇 対ソ準備した軍を南方戦線転用
・海軍の愚 伝統的邀撃構想を放棄して短期決戦追及

8

**視点3: 政軍関係が歪**

鹿児島郷友会

(21,205,210話)

問題認識

- 日清・日露戦争の際には政軍関係は良好
- 昭和期の戦争に際はどうだったのか
- ◎ 明治システムの成功体験の呪縛・盲信
⇒修正も変更も出来ず

問題点

- ① 統帥権の独立
(統帥と国務の連携模索は)
- ② 軍部大臣武官制
- ③ 内閣制度

9

**視点4: 同盟戦略は適切だったのか**

鹿児島郷友会

(102,182,192話)

◎日英同盟廃止(1923/8/17)後の同盟対象国は？ 米(英)、蘇、独、中

①米英は？ 逐次に反米英感情増幅(視点6参照)

②ソ連は

国防方針との関係

対日政策

* 以上の観点から同盟国家足り得ない

③中華民国との和解提議の可能性は(日中提携は欧米にとって悪夢?)

・日本の支那事変不拡大が失敗したのは何故か?

『第二次上海事変(1937/8/13~)で支那事変が中支に拡大

(第二次上海事変: 独の支援を受けて近代化された中国(国民党)軍が、上海租界地に奇襲的に攻撃)』

・中国の対日不信

* 結局消去法により「独」のみ

10

**視点5: 国家としての情勢分析は適切だったのか**

鹿児島郷友会

(125, 156, 227話)

対象国等に関する情勢分析

- 欧州情勢は複雑怪奇と平沼内閣総辞職(1939/8/28)
* 自らの稚拙さを露呈
- 米国の参戦防止策はなかりしか?
米英可分・不可分論争etc
日米避戦の途は?
- 三正面対処戦争の無謀さ
- 知米派多数存在 排除、知見の活用なし
- 内閣情報室創設(1940/12/6)

11

**視点6 対米(英)感情と開戦決意**

鹿児島郷友会

(309話)

国民感情は国策に如何なる影響を与えるのか? その変遷は?

- 1 英米協調路線 1920年代までは 英米協調が基軸
- 2 英米に対する不満の蓄積
人種差別撤廃案の否決、排日移民法、軍縮条約の不平等強要
満州事変リットン調査団対日干渉
- 3 支那事変の中支への拡大に伴い対英感情の転換
天津租界封鎖事件 ⇒ 反英大会頻繁開催
対米感情は抑制的 バネー号事件、アストリア号による遺骨環送
日米通商航海条約破棄通告や援蒋問題はあったが..
- 4 日米交渉の不調と米国の対日制裁
独の快進撃や同盟締結等⇒日米交渉の不調
* マスコミの対米英報道強硬に(マスコミの戦争責任も問われるべき)
* 国策と国民感情 相互にシンクロして開戦決意の一因に
* 日米間には具体的な利害対立はなく、「東亞新秩序」と「門戸開放・機会均等」の原則論の対立が根本
* 大衆ポピュリズムの跋扈

12

**視点7:戦争指導計画の適切性は**

鹿児島郷友会

(25,59,87,96,125,180,185,215,222,250話)

戦争指導計画

唯一の計画(グランドデザイン):「対米英蘭戦終末促進に関する腹案」(1941/11/5 連絡会議決定) (以下「腹案」と称す)

◎腹案の概要

- ・南方要域攻略
- ・自存自衛態勢構築
- ・蒋政権屈服
- ・独伊との連携で英の屈服 → 米の継戦意思喪失
- ・長期持久態勢 あらゆる手段で米海軍撃滅

◎腹案が依拠せる**秋丸機関の研究結果**(215話)
「英米合作経済抗戦力調査」(1941/7)

参考:秋丸機関(1939/9)陸軍省戦争経済研究班
秋丸陸軍中佐を長とし、錚々たる経済学者を
集めて敵味方の経済戦力分析し、弱点把

13

**視点8:初期進攻作戦後の戦争指導の破綻**

(92,190話)

◎当初の戦争指導構想

初期進攻後に、長期持久態勢の確立 戦略守勢への移行
初期進攻作戦後の進出域(1942年夏頃)(次図)

◎初期進攻作戦後の戦争指導構想の案

- ・当初の構想通りに戦略守勢に移行
- or・初期作戦の戦果を拡張

◎陸海軍対立

陸軍:当初案の通り
海軍:戦果拡張 軍令部=豪州方面占領、遊撃態勢確立
連合艦隊=中部太平洋早期決戦(ミッドウェー)

◎今後探るべき戦争指導の大綱(1942/3/7)

陸海軍の意見調整の結果
「既得の戦果を拡充し」「長期不敗の態勢を整えつつ」と妥協的文言
*理解不能! どうしたいのか?(両論併記:日本の問題解決法?)

何が問題だったのか

14

**視点9:戦争終結機会の捕捉は?**

鹿児島郷友会

(45,204,225,278話)

戦争の常道

戦いを有利な条件・態勢で止めるかを確立して始め、
常にそれを模索・追及すること(戦う前に勝つ!)

- 1 終末構想の概要
- 2 様々な終戦工作・研究
- 3 ソ連仲介和平案の奇怪さ
- 4 幸福な(?)終戦を迎えられたのは?

15

**視点10:ドクトリン開発等柔軟性は**

鹿児島郷友会

- 1 空母機動部隊の創設と運用(262話)
- 2 島嶼を巡る戦い
(日:陸海協同、海軍陸戦隊、米:海兵隊の創設と運用)
- 3 大艦巨砲主義からの転換(19話)
- 4 航空部隊の協同、統一指揮、独立(279話)
- 5 基地航空部隊の活用(116話)
- 6 空挺部隊の挺進行動(57話)
- 7 潜水艦の運用について
- 8 戦略爆撃(307話)
- 9 渡洋上陸作戦

- ◎ 日本の発想力は是とするも、実現力には日米の差を感じる。
- ◎ 大規模組織化・システム化の差

16



視点11:日本の軍事組織の弱点は？

鹿児島郷友会

軍事組織のみだらうか？

- 1 作戦偏重主義 ⇔ 情報軽視、兵站軽視
攻勢・攻撃優先、艦隊撃滅優先⇔作戦目的の喪失
(177話 長蛇を逸したり！)
- 2 現場追認、現地部隊の暴走を止め得ず
- 3 人事:学歴主義、温情主義、積極果敢推奨
戦時抜擢や実績主義なし⇔実績主義、抜擢人事
- 4 強硬論や声望大なる者に引き摺られる傾向大
- 5 攻勢優先主義、精神主義
- 6 科学技術の活用等

17



視点12:陸海軍の対立解消し得ず

鹿児島郷友会

(94話、205話、277話、310話)

- 1 **統帥組織上の問題**:陸海軍の対立を仲裁・調停しうるのは天皇のみ
- 2 陸主海従への不満の鬱積・反発
- 3 興味と関心の差が体質化(陸:人、国家 海:技術や艦艇)
- 4 国家予算獲得対立
- 5 仮想敵国の相違
- 6 出師準備と動員、戦争決意の陸軍・決意無き海軍
- 7 陸軍の範とした国の差、海軍の経緯の差
- 8 陸軍の政治化、反政治的体質の海軍
- 9 陸軍の暴走を抑止するのが海軍との意識
- 10 現地レベルの協同は比較的良好だが、国家レベルでは相互不信
- 11 国策の方向性を巡る対立
- 12 親独派の多い陸軍と冷ややかな海軍
- 13 陸の長州vs 海の薩摩 の暗闘？

18



視点13:政略(軍事力以外の分野)は？

鹿児島郷友会

- 総動員体制(国家総力戦体制)(297話)
- 大東亜共栄圏構想(298話)
- 国際情勢分析と軍事力以外の力の活用
関係国への働き掛け 蒋介石に比すれば絶無
(11話 宋美齡、270話 蒋介石、292話 突はソ連と戦っていた)
謀略放送 効果の程は不明なるも
特務機関を作戰に寄与させることを目的に運用したのだが、
- * 軍政は適切だったのか
現地の実情にマッチング？ 軍事的要求が大？
- * **軍事が外交をリード**
軍の政治化 (95話 帝国陸軍は何故政治化したのか？)

19



視点14:国家のリーダー

鹿児島郷友会

- 能吏は育てられても、リーダーは育てられない日本の風土
治世(平時)の能臣、乱世の雄
リーダーを必要としない日本社会 (平穏な農耕社会)か？
- 日本にヒトラー・ムッソリーニ・スターリンなく、
ルーズベルトもチャーチルも居ない。

リーダー不在でも国策が自然に決まる。
マスコミ、大衆(世論)、軍部、政治家が自然にある方向に
収斂していく不可思議(同調圧力)
- **大所・高所からの判断が出来ぬ体質**
和の集団、集団主義
- リーダーは育てられるか、育てるには
- 何に学ぶか 歴史に学ぶ、自学研鑽、修羅場を追体験

20



3 日本の敗因等総括

鹿兒島郷友会

- ① 日本人は戦略的分析・思考が苦手？リアリスティックに！
 - ② リーダーシップに難
 - ③ 大部隊の戦略に過誤多し、第一線部隊は勇戦敢闘
 - ④ マ元帥回顧録 日本の将校は上級ほど質が落ちる！
 - ⑤ **日本の意思決定法は問題** (312話etc)
(徹底的議論せず、両論併記、文言妥協、問題の先送り、玉虫色決着、強硬論、権威者、声望者に弱い、面子重視引き摺られる傾向大、原理・原則を振りかざす傾向大)
 - ⑥ 米国に追い詰められ、蒋介石にしてやられた感あるも、ミスや誤判断も多々
 - ⑦ 日本(人)の弱点露頭(日本のシステムの弱点は正、集団主義、温情主義、ドラスティックな改革至難、権威主義、自己組織優先)
- * 動き始めた函車は止められないのか？
* 日本(人)は優秀だし、弱点克服により飛躍可能(自信を持つべし！)

21



4 日本再生の為に

鹿兒島郷友会

- 1 視点1から14で述べた通り多くの弱点ありこれを如何に克服するかが問われている。
(再生の第一歩=己を知る！)
- 2 本戦争にかかる日本国としての国史の確立
呼称問題、意義、侵略論からの脱却
- 3 自信と誇りを取り戻す
- 4 戦争責任は誰が引き受けるのか？
- 5 若者に対する現代史の教育
- 6 戦没者の慰霊・顕彰等(国としての責務再確認)
全国戦没者追悼式のみか、靖国神社の位置付け明確化
天皇陛下の御親拝

22



5 大東亜慰霊協

鹿兒島郷友会

- ◎ 戦没者崇敬に関する思想の昂揚、大東亜戦争における全戦没者の慰霊事業の永続⇒健全国政運営
- ◎ 事業
戦没者崇敬思想 広報誌、HP
戦没者慰霊事業 合同慰霊祭(7月、靖国神社)
遺骨収容事業への協力等 傘下団体からの参加
- ◎ 平成17年創設
会長:
- ◎ 正会員団体 39、特別会員団体 16
個人会員 賛助会員、賛助特別会員
- ◎ 事務所 千代田区飯田橋
- ◎ HP <https://www.ireikyou.com/>

23



5 大東亜慰霊協(2)

鹿兒島郷友会

- ◎ 賛助会員
年会費 3,000円
広報誌「慰霊」
合同慰霊祭の案内
- ◎ 皆様のご入会を切望
当協議会は浄財によって運営



24

鹿児島郷友会

遺骨収容事業の概要

- 1 平成28年(2016)
遺骨収集推進法成立
- 2 8年間を集中実施期間(～2024年度)
R5/6/9 更に5年間延長決定((2029年度)
- 3 実施機関 遺骨収集推進協会
遺族会、戦友会、慰霊協等が
会員として参加
- 4 国内の遺骨収集
・沖縄(未収容 01万/18.8万)
民間ボランティア (JYMA等)
・硫黄島(未収容 1.1万/2.1万)
年4回 慰霊協からは各回2名参加
<http://yamateru.stars.ne.jp/oriori288.pdf>
<http://yamateru.stars.ne.jp/ioujima11.pdf>

① 海外戦没者概数	
2,400,000	
② 収容遺骨概数	
1,277,000	
③ 未収容遺骨概数	
1,123,000	
遺 没	約30万柱
④ 相手の事情により収容困難	約23万柱
収容可能な遺骨概数(最大)	約59万柱

25

鹿児島郷友会

遺骨収用事業の概要(2)

- 5 近年の収容実績
H30:838、R1:404、R2:106、R3: 73
- 6 問題点
 - ・遺骨収集意識の風化
 - ・遺族の高齢化・逝去
 - ・収容可能性
 - ・収容不可の国との関係
 - ・硫黄島の滑走路下に埋葬された遺骨
 - ・防衛省の関わり(列国は軍の責任)

26

鹿児島郷友会

最後に一言

◎ 日本が自主的・主導的に大東亜戦争を主導したのであれば、斯くまでも無様な戦争にはならなかったのではないかと考える。
日本に主導権なく、追い詰められ、十分な態勢も探りえない状況下で、戦争を遂行しなければならなかったのだと確言できる。
とは云え、だからこそ日本・日本人の弱点が顕著に現れたのではないかと考える。

◎ 軍事指導者の苦悩と決意(121話)
『戦わざれば亡国と政府は判断・戦うもまた亡国につながるやもしれぬ・しかし、戦わずして国滅びた場合は魂まで失った**真の亡国**である。然して、最後の一兵まで戦うことについてのみ、死中に活路を見出しうるのである。戦って、よしんば勝たずとも、護国に徹した日本精神さえ残れば、我らの子孫は再三再起するだろう。そしていったん戦争と決定せられた場合、我ら軍人はただただ大命一戦しに赴くのみである』
²⁷
(永野修身軍令部総長 1941/11/1 大本営政府連絡会議後の挨拶)